

協議会の取組(平成20年秋)

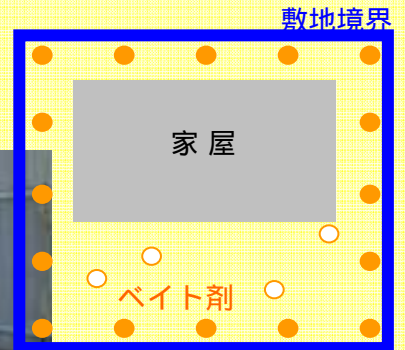
協議会では平成20年10月に、岩国市、柳井市、廿日市市及び大竹市の一定地区で、住民ボランティア参加による、「地域ぐるみの防除活動」にモデル的に取り組みました。取組では、協議会で購入した薬剤(ベイト(餌)剤等)を、住民の皆さんの協力により、地区内の住宅地や道路等に設置、アルゼンチンアリに巣まで運んでもらう方法等で、アリを巣ごと退治することを目指しました。

防除活動の例(岩国市の場合)

時刻	10月14日 1日目	10月15日 2日目	10月16日 3日目
0:00			
2:00			
4:00			
6:00			
8:00			
10:00			
12:00			
14:00			
16:00	設置	回収・設置	回収
18:00			
20:00			
22:00			
24:00			



液体(有効成分:ホウ酸)と
顆粒(有効成分:ヒドラメチルノン)
の2種類のベイト剤を使用



敷地境界と敷地内に設置

市別の実施状況

市別	実施地区名	対象世帯数
岩国市	黒磯町二丁目(一部)	約100
柳井市	馬皿地区(一部)	約90
廿日市市	地御前一丁目(扇園地区)	約230
大竹市	南栄三丁目自治会	約280

防除活動は、予め配布したベイト剤を、自己の住宅地内に設置、翌日(24時間後)に交換、翌々日に撤去するという方法で行いました。

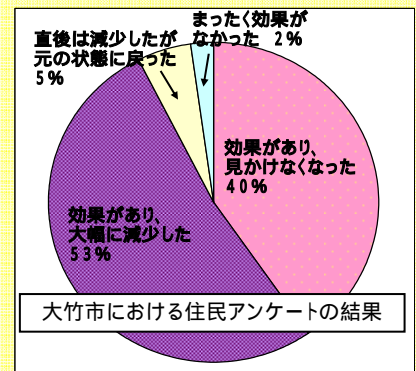
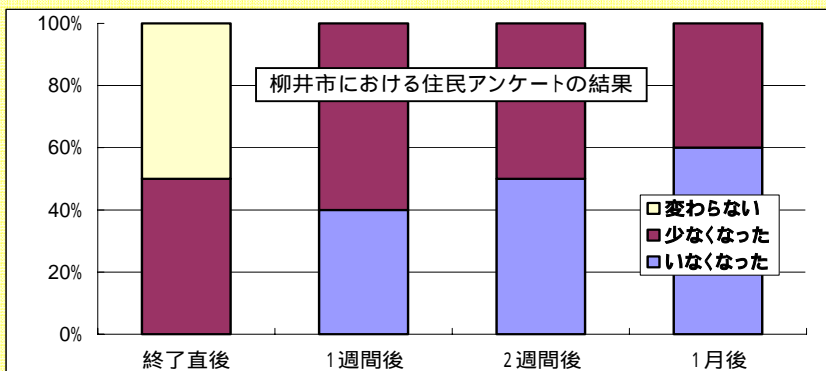
また、道路等の公共の場所については、住民ボランティアの他に、市職員や委託した専門業者によっても行っています。(大竹市では、遅効性の液剤を一定期間内に散布してもらい、併せてベイト剤の設置を行いました。)

なお、参加された住民の方に、防除の効果について、アンケートによる回答をお願いしています。



ベイト剤に集まるアルゼンチンアリ

これら取組の結果、完全な駆除までにはいたらなかったものの、どの地区においても一定の効果があげることができました。ここでは、柳井市と大竹市の住民アンケートの結果をグラフにしています。(大竹市のグラフは防除1ヶ月後の感想)



住民アンケートの他にも、専門業者により、実施地区の一定箇所において、アルゼンチンアリの数を調査しました。

調査の結果、どの地区においても、実施直後は1割程度に減少しています。廿日市市と岩国市では、実施後期間を空けてアルゼンチンアリの数を測定しましたが、若干増加するものの、3割以内となっています。

協議会では、これらの結果を参考にアルゼンチンアリ防除に向けた取組を進めていくこととしています。

